



No.3



No.4



No.5



No.6



No.7

角化歯肉はコラーゲン層上を進展する。

角化歯肉下層にコラーゲン層が存在することから、続けて、十分な厚さの歯槽部歯肉に成長する。

口腔前提拡張術に用いたサクシオンチューブは確実な移植片の保持と、圧迫された粘膜部が癒痕化するため可動粘膜化せず、作成された角化歯肉が吸収されない。

したがって、本法は、大きな侵襲を加えず、確実に、角化歯肉の幅と厚さを得る有効な方法と考えられると評価され英国口腔外科雑誌にアクセプトされた (Augmentation of the Width and Thickness of Keratinized Gingiva Using a Collagen Biomaterial in Apically Positioned Flap Surgery: A Technical Note, Yamamoto H, Matsushita K, Yamaguchi K, Yamagishi M, Tamura M, Br J Oral Maxillofac Surg. 2022 ,60: 516-518.)

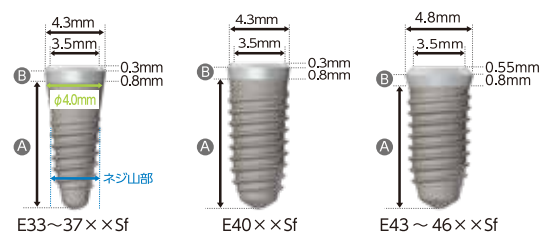
■(症例)75歳女性、34-37欠損症。69歳の時に胃がんにて胃全摘。

鉄欠乏性貧血に対する加療後、34-37欠損に対してマイティスアローインプラントEタイプを3本埋入した。二次手術時でのFGGは躊躇され、APFを選択した。

粘膜弁にて剥離翻転し、下顎管損傷に注意しチタンスクリー3本によりフレックスチューブを固定した1)2)。テルダーミス2枚を重ねて翻転された歯肉粘膜内に静置した3)。

頬側歯肉には縫合針を刺入することなく、チューブに刺入し5-0ナイロン糸にて連続縫合した4)。抜糸後3週間目には既存歯肉より、幅厚みとも大きくなった5)。

二次手術を通法で行い2週間後には、頬側に角化歯肉は厚み幅とも十分に存在した6)。上部構造装着後2か年、十分な角化歯肉が存在し清掃しやすい歯間形態が持続している7)。



マイティスアローインプラントE-type